特集

平成29年度 JAあきた白神農畜産物生産者大会

～農業生産の拡大と所得増大を図り、農畜産物販売高60億円目指す～

JAあきた白神と青果物生産振興連絡協議会（畑山悦雄会長）による、平成29年度農畜産物生産者大会が2月19日に開かれ、優良生産者の表彰や平成30年度の計画が報告されたほか、生産拡大と農業所得増大に向け、複合経営をさらに推し進めることなどを掲げた大会宣言を採択しました。

大会には、生産者やJA・市場関係者など約240人が出席。はじめに、佐藤組合長が「30年産米については、加工用米・備蓄米の取り組みを一時取りやめ、予約契約すべてを主食用米として販売していくことを決めた。また、青果物においては白神ねぎが3年連続の10億円販売の達成、園芸メガ団地の販売額も1億円を大きく上回る実績となり、青果物販売額20億円以上へ向けた、3カ年計画の2年目で大きな弾みがついた。今後も白神シリーズを中心に、白神農畜産物を更にアピールし、地域農業の発展と後継者が安心して就農できる所得の確保・向上に向け、全力で取り組んでいく」とあいさつ。

続いて畑山会長が「雪解けが遅かったことから、春作業の遅れや5月下旬からの低温、11月の降雪などの影響で栽培管理・収穫作業等に大変難儀した年だったが、生産者の素早い対応と、培った栽培管理技術により、農畜産物の生産・出荷に尽力いただいた。この大会を通じて、さらなる飛躍の年になるよう生産者一同頑張っていこう」と今後に向けて抱負を話しました。

今年度の販売実績見込みは、58億5175万円とし、計画対比102・7％となっています。また、平成30年度は、農畜産物販売高60億5012万円の目標を掲げ「園芸品目導入による複合化を推し進め、農業生産の拡大並びに農業所得の増大を図ろう」など5項目からなる大会宣言をし、満場一致で採択されました。

↑今年度の総括を話した畑山会長